

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
経営協議会（令和元年度第2回）議事要旨

1. 日時 令和元年6月18日（火）13:00～14:57
2. 場所 事務局3階 会議室
3. 出席者 横矢議長
垣内、箱嶋、渡邊、土井、小笠原、殿崎の各学内委員
ベントン、小山、田中、野間口、宮脇、矢嶋の各学外委員
欠席者 手代木、板東、宮原の各学外委員
出席監事 西村、野口の各監事
- 陪席者 松山次長
中野、森、川村、小林、田中、田坂、吉川の各課長
4. 配付資料
- 資料1-1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（平成30年度第5回）議事要旨（案）
- 資料1-2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（令和元年度第1回：電子会議）議事要旨（案）
- 資料2-1 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について
- 資料2-2 平成30事業年度に係る業務実績に関する報告書（案）の概要
- 資料2-3 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）
- 参考資料 「平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書」の記載方法について
- 資料3-1 平成30事業年度 財務諸表 第15期
- 資料3-2 平成30事業年度決算について
- 資料4 令和2年度予算に係る運営費交付金概算要求について
- 資料5 学長選考会議委員の選出について
- 資料6 平成31年度 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 運営体制
- 資料7 本学の主な動き（平成31年3月～令和元年6月）
- 資料8 国立大学法人における会計監査人の選任について（通知）
- 資料9 令和元年度外部資金の受入れについて
- 資料10 スーパーグローバル大学創成支援事業 自走化計画の作成・公表について
- 資料11 奈良先端大東京フォーラム2019について
- 机上資料 奈良先端大の概要と特色

議事に先立ち、議長から新任の学外委員の紹介が行われた。

5. 議事

（前回議事要旨の確認）

資料1-1～2の平成30年度第5回及び令和元年度第1回の議事要旨（案）について、原案のとおり承認した。

(審議事項)

- (1) 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について
箱嶋委員から、資料2—1～3に基づき、平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。なお、今後修正等がある場合は、学長に一任することとした。
- (2) 平成30年度決算について
渡邊委員から、資料3—1～2に基づき、平成30年度決算について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。
- (3) 令和2年度概算要求について
渡邊委員から、資料4に基づき、令和2年度概算要求について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。なお、今後修正等がある場合は、学長に一任することとした。
- (4) 学長選考会議委員の選出について
議長から、資料5に基づき、学長選考会議規程第3条第1項第1号の学長選考会議委員の選出について説明が行われ、審議の結果、小山委員、田中委員、野間口委員、板東委員、矢嶋委員の計5名が選出された。

(報告事項)

- (1) 平成31年度運営体制について
議長から、資料6に基づき、平成31年度運営体制について、報告があった。
- (2) 本学の主な動きについて(平成31年3月～令和元年6月)
議長から、資料7に基づき、平成31年3月から令和元年6月までの本学の主な動きについて、報告があった。
- (3) 令和元年度(2019年度)会計監査人の選任について
渡邊委員から、資料8に基づき、本学の会計監査人として有限責任あずさ監査法人が選任された旨の報告があった。
- (4) 令和元年度外部資金の受入れについて
箱嶋委員から、資料9に基づき、令和元年度外部資金の受入れについて、報告があった。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・大学の評価、特に研究強化型の大学の評価というのが、URAが大型予算の獲得やグローバル化にどう関与しているかが問われることが多いので、奈良先端大としても、他大学と競合するために、URAの役割をシフトしていくことも重要ではないか。

(その他)

- (1) スーパーグローバル大学創成支援事業 自走化計画の作成・公表について
垣内委員から、資料10に基づき、スーパーグローバル大学創成支援事業 自走化計画の作成・公表について、説明があった。

(2) 奈良先端大東京フォーラム 2019 について

箱嶋委員から、資料 1 1 に基づき、奈良先端大東京フォーラム 2019 について、案内があった。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・奈良先端大は、「奈良」と「先端科学技術」というキーワードを冠している大学であるので、最先端の科学で、文化財など歴史ある奈良を捉え直すという切り口で新しい取り組みができれば面白いと思う。

以 上